【ポスターセッションの場合のみ記入 9pt 明朝・左端揃】

性加害行為のある知的障がい者の支援の展開について
ー性加害行為のある知的障がい者の支援経験者へのインタビュー調査よりー

○ 大阪人間科学大学 氏名 山崎康一郎 (008395)

水藤 昌彦 (山口県立大学・007827)

キーワード：性加害、知的障がい、支援展開

1. 研究目的

近年、非行・犯罪行為のあった障がい者に対する支援の必要性への認識が高まり、司法と福祉の連携による取り組みが進められている。しかし一方で、非行・犯罪行為者への対応を主要な業務とはしていない障がい福祉事業所では、非行・犯罪行為のあった障がい者の受け入れや支援において、専門的な支援プログラムを持っていないなどの理由で対応に苦慮しているとされている。特に、性犯罪・性加害行為のある知的障がい者への障がい福祉事業所での支援については、その状況、対応方法に関する日本における先行研究は非常に少なく、有効な支援方法の提示が殆どない。

筆者らはこれまでに障がい福祉事業所の支援者を対象に質問紙調査を行い、性加害行為のある知的障がい者の支援については、約9割の回答者がある程度困難であると考えているという結果を得た。そこで、本研究では、性加害行為のある知的障がい者の支援を行った経験のある支援者への調査から、支援の状況を明らかにすることを目的とする。本報告では特に、性加害行為のある利用者について当該行為に至る要因と支援方針に焦点を当て、支援展開や支援状況を呈示していく。

2. 研究の視点および方法

性加害行為のある知的障がい者を受け入れている事業所について、研究協力者から紹介を受け、所属職員へのインタビュー調査を行った。調査対象者は性加害行為のある知的障がい者への支援経験のある者6名で、半構造化面接による個別インタビュー調査を実施した。調査内容は、支援対象となった利用者による性加害行為の概要、性加害行為への認識、性加害行為の要因についての見立て、支援内容、支援の結果である。

3. 倫理的配慮

事前に事業所の代表者へ調査趣旨を説明し、了承を得てインタビュー調査を行った。インタビュー調査時には、回答者へ改めて調査の趣旨、回答は自由意思でありいつでも中断できること、回答内容によって所属事業所や回答者に一切の不利益が生じないこと、プライバシーが保護されることを口頭および文書にて説明し、文書で承諾を得た。

また、筆者の所属する機関において倫理審査を受け、承認を得た。

4. 研究結果

文書化したデータを修正版グランデッド・セオリー・アプローチによって分析した。文